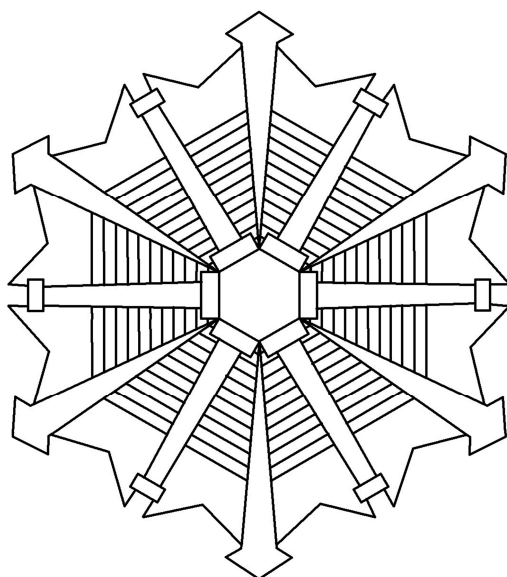


消防現況

令和元年(平成31年)版



久万高原町消防本部

= 目 次 =

年号変更に伴い、平成31年1月から令和元年12月までの年号標記につきましては「令和元年」若しくは「元年」で統一しています。

◇ 火災編	1
◇ 救急編	7
◇ 救助編	23
◇ 予防編	27



火 災 編



ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

久万高原町内の火災の実態

1. 火災の状況

(1) 地区別火災発生状況…全地区で火災が発生

第1表 地区別火災発生状況

区分	単位	久万高原町								合計	
		久万地区		面河地区		美川地区		柳谷地区		平成30年	令和元年
		平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年		
出火件数	件	4	2	1	1	-	1	1	1	6	5
建物		1	-	1	-	-	-	1	1	3	1
林野		1	-	-	1	-	-	-	-	1	1
車両		-	1	-	-	-	1	-	-	-	2
その他		2	1	-	-	-	-	-	-	2	1
損害額	千円	377	24	1,164	62	-	1,822	943	6,377	2,484	8,285
建物		46	-	1,164	-	-	-	943	6,377	2,153	6,377
林野		5	-	-	62	-	15	-	-	5	77
車両		-	24	-	-	-	1,800	-	-	-	1,824
その他		326	-	-	-	-	7	-	-	326	7
焼損棟数	棟	1	-	1	-	-	-	3	2	5	2
り災世帯数	世帯	-	-	1	-	-	-	1	1	2	1
り災人員	人	-	-	1	-	-	-	1	2	2	2
死者	人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
負傷者		-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
出火率	%	-	-	-	-	-	-	-	-	7.0	6.1

(注) 出火率を求めた人口は、平成31年4月1日現在の住民基本台帳による。

※久万高原町人口：8,229人

※出火率・・・人口1万人あたりの火災件数の割合

(2) 出火率…久万高原町は6.1%

消防白書の出火率を都道府県別にみると、全国平均は3.1%となっている。

愛媛県は34番目に低い3.0%となっており、最も高いのは高知県の4.8%である。一方、最も低いのは、富山県の1.7%であった。

(3) 四季別の火災発生状況…春季、冬季共に2件発生

第2表 四季別火災発生状況

年 別 季 別	平成30年			令和元年		
	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)
春季(3月～5月)	3	50.0	377	2	40.0	1,846
夏季(6月～8月)	2	33.3	2,107	0	0	0
秋季(9月～11月)	1	16.7	0	1	20.0	0
冬季(12月～2月)	0	0.0	0	2	40.0	6,439
合 計	6	100.0	2,484	5	100.0	8,285

(4) 建物焼損面積…昨年の建物火災件数は3件に対し、今年は1件

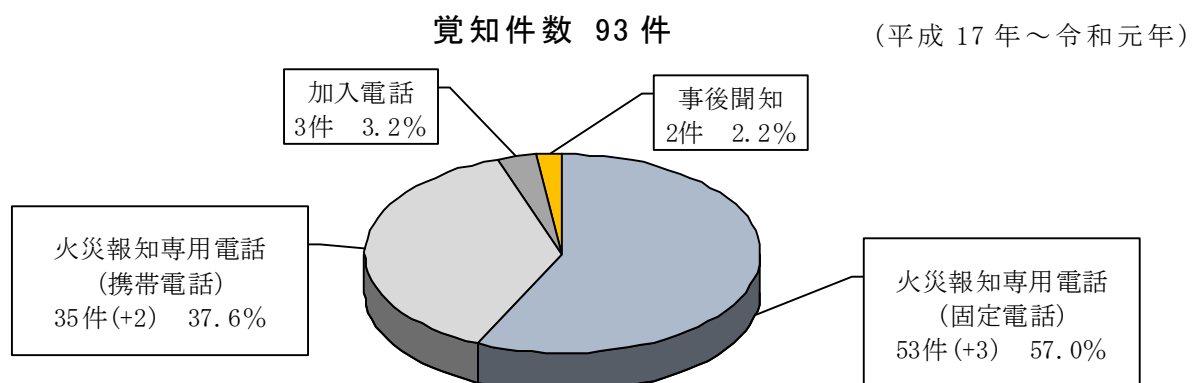
第3表 焼損床面積・表面積

月 日	地 区	出火元の用途	焼損棟数	焼損程度	焼損床面積	焼損表面積
2月 26日	柳谷	住宅	2棟	全焼・ぼや	33 m ²	0 m ²

(5) 覚知と通報…火災通報専用電話(固定電話)による通報60.0%

令和元年中の火災件数、5件の内3件は固定電話からの通報であった。

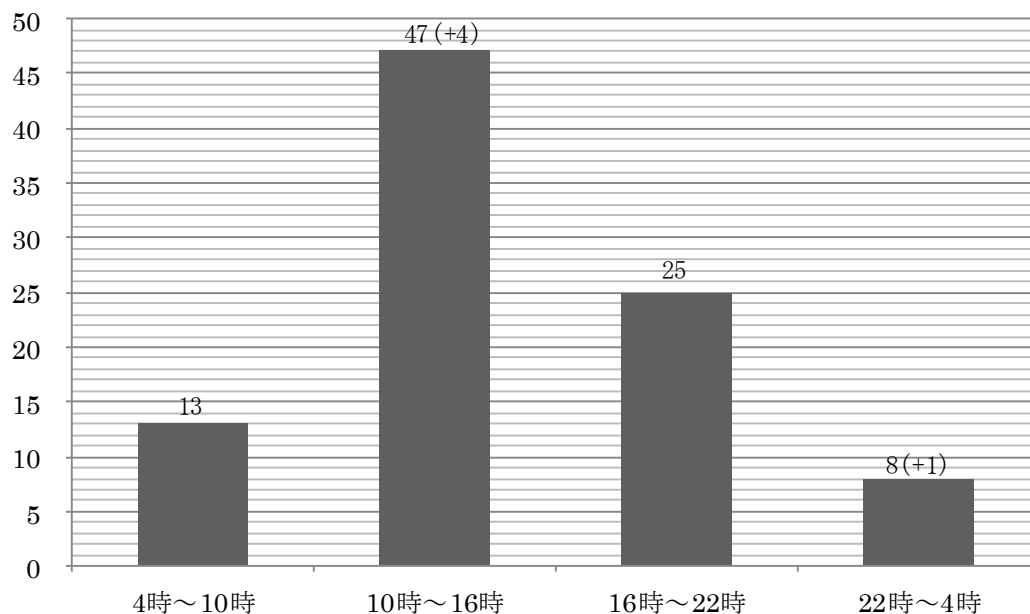
第1図 覚知方法別出火件数



(6) 時間帯別の火災発生状況…発生した火災の8割が日中に発生

第2図 時間帯別火災発生状況

(平成17年～令和元年)



2. 損害額…損害額は増加

消防白書によると全国の火災による損害額は893億円で、前年に比べ18.8%増加した。

令和元年中の久万高原町の火災による損害額は8,285千円となっており、平成30年の2,484千円と比べ70%の増加となった。

3. 火災による死傷者の状況

令和元年中の5件の火災で死傷者は発生していない。

4. 初期消火…初期消火実施率60.0%

令和元年中における初期消火の実施状況をみると、5件中3件が初期消火を実施している。初期消火方法においては、粉末消火設備、粉末消火器、竹ぼうきや鎌による叩き消火、となっている。

5. 出火原因…多くは火気取扱いの不注意からの出火

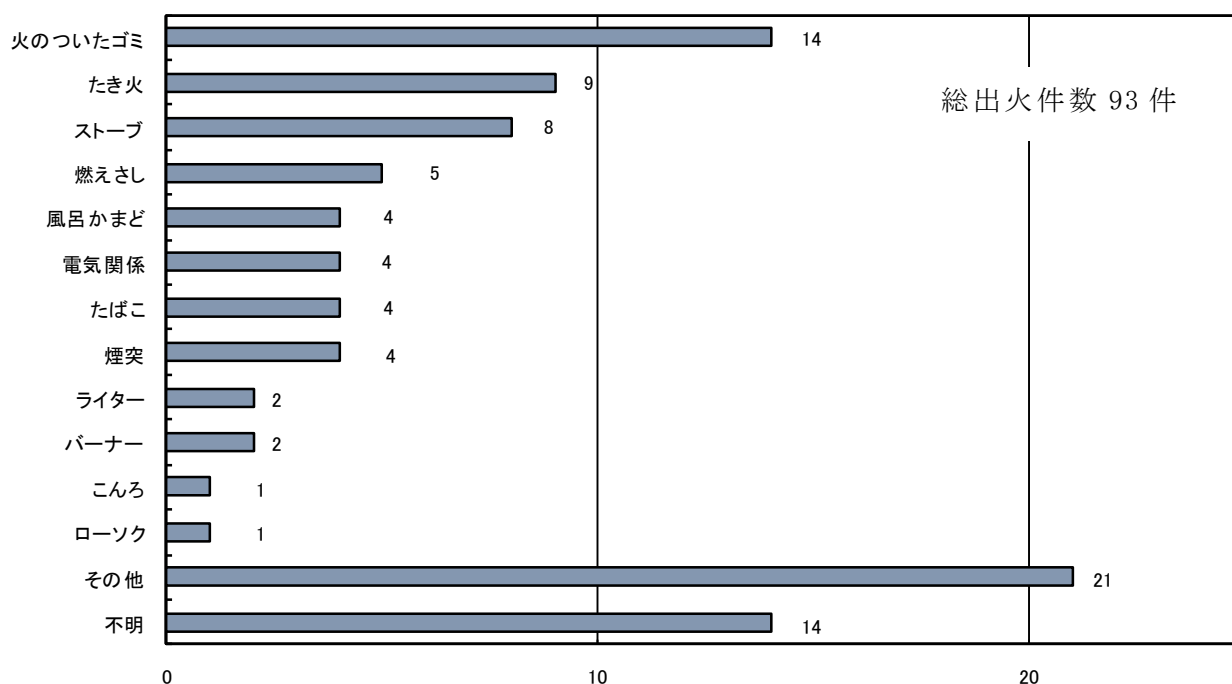
第4表 火災別発火源・経過・着火物

火災種別	月日	発火源	経過	着火物
林野	1月30日	火のついたゴミ	火の粉が散る遠くへ飛火する	生えたまま 枯れたもの・落ち葉
建物	2月26日	ストーブ	放置する・忘れる	繊維製品
車両	3月26日	不明	不明	電気配線類
車両	3月27日	排気管	過熱する	第4石油類・木屑
その他	9月9日	その他	自然発火	その他

過去15年間（93件）についてみると、火のついたゴミによる出火が14件（15.1%）と最も多く、次いでたき火が9件（9.7%）、ストーブ8件（8.6%）の順となっている。（第3図参照）

第3図 出火原因別の火災件数

（平成17年～令和元年）



令和元年 火災一覧表

火災番号	出火月日	火災種別	出火場所	出火時刻	覚知時刻	鎮火時刻	天候	風速	湿度	火元用途	構造燃焼物	焼損棟数			り災		死傷者 死者	焼損面積 床面積 (㎡)	表面積 (㎡)	林野 (a)	損害額 (千円)	出火原因	
												全焼	半焼	部分焼	人員	世帯							
1	1/30	林野	面河地区	11:55	12:24	13:00	晴れ	0.7m/秒	50.6%	林野	-	-	-	-	-	-	-	-	247	62	家庭ゴミを焼却処分中、炎が風に煽られ周囲の枯草・落ち葉に燃え移り出火したものの。		
2	2/26	建物	柳谷地区	11:35	11:51	12:40	晴れ	1.9m/秒	-	住宅	木造	1	-	1	2	-	-	33	0	6,377	電気ストーブから日用品(タオル)に着火し出火したものの。		
3	3/26	車両	久万地区	10:10	10:18	10:27	晴れ	3.2m/秒	72.0%	車両	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	不明		
4	3/27	車両	美川地区	14:35	14:52	15:50	晴れ	4.1m/秒	27.0%	車両	-	-	-	-	-	-	-	-	0.480	1,822	穴の開いたマフラーから高温の排気ガスが漏れ、付近にあった堆積物が熱せられ引火したものの		
5	9/9	その他	久万地区	0:00	5:35	7:09	曇り	0.5m/秒	96.6%	敷地内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	パーク堆積場のパークが長期間大量に堆積され、天候、気温等の気象条件により、パーク内部の温度が上昇し自然発火したものの		
合 計												1	-	-	1	2	-	-	33	0	247	8,285	

※焼損程度解説

・全焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70パーセント以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。

・半焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント以上のもので全焼に該当しないものをいう。

・部分焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント未満のものでばやに該当しないものをいう。

・ばや

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10パーセント未満であり焼損床面積が1平方メートル未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の評価額の10パーセント未満であり

焼損床面積が1平方メートル未満のもの、又は収容物のみ焼損したものをいう。

地区別火災発生一覽表

(平成17年～令和元年)

区分 地区	出火件数				焼損面積			焼損棟数	り災		死傷者		損害額
	統計	建物	林野	他	床面積(m ²)	表面積(m ²)	林野(a)		世帯	人員	死者	傷者	千円
久万地区	52	29	11	12	1,492	194	120	36	14	35	-	1	41,757
東明神	4	2	-	2	50	-	13	2	-	-	-	-	650
西明神	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入野	5	3	-	2	199	-	8	3	2	2	-	-	2,902
久万	7	7	-	-	243	7	-	8	8	13	-	-	5,761
野尻	7	4	-	3	1	101	-	4	-	-	-	-	3,418
菅生	6	3	2	1	165	34	33	5	1	3	-	-	10,089
上畑野川	4	1	3	-	112	-	12	1	-	10	-	-	1,382
下畑野川	3	-	1	2	-	-	42	-	-	-	-	-	595
直瀬	7	3	3	1	192	10	6	4	-	-	-	1	884
父野川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
露峰	4	2	1	1	164	-	-	2	1	4	-	-	7,127
二名	5	4	1	-	366	42	6	7	2	3	-	-	8,949
面河地区	7	4	2	1	785	128	248	17	7	12	1	1	14,162
相の木	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	803
笠方	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
前組	2	1	1	-	294	-	247	5	1	3	1	-	3,583
洪草・大成	3	3	-	-	491	128	-	12	6	9	-	1	9,775
中組・本組	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
若山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美川地区	23	18	3	2	1,535	97	194	36	13	29	1	-	37,849
有枝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大川	2	2	-	-	145	32	-	3	1	3	-	-	1,991
上黒岩	3	2	1	-	4	-	-	2	-	-	-	-	439
中黒岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沢渡	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1,822
日野浦	5	4	1	-	359	11	8	9	3	5	1	-	9,280
仕出	1	1	-	-	30	17	-	3	-	-	-	-	652
七鳥	5	4	-	1	228	23	-	5	3	9	-	-	5,542
東川	4	4	-	-	510	14	-	10	5	10	-	-	13,151
黒藤川	2	1	1	-	259	-	186	4	1	2	-	-	4,972
柳谷地区	11	10	1	-	1,290	100	10	28	8	13	-	3	26,366
柳井川	5	4	1	-	387	59	4	9	3	5	-	3	6,291
西谷	4	4	-	-	783	41	6	14	4	6	-	-	12,845
中津	2	2	-	-	120	-	-	5	1	2	-	-	7,230
久万高原町	93	61	17	15	5,102	519	572	117	42	89	2	5	120,134

救 急 編



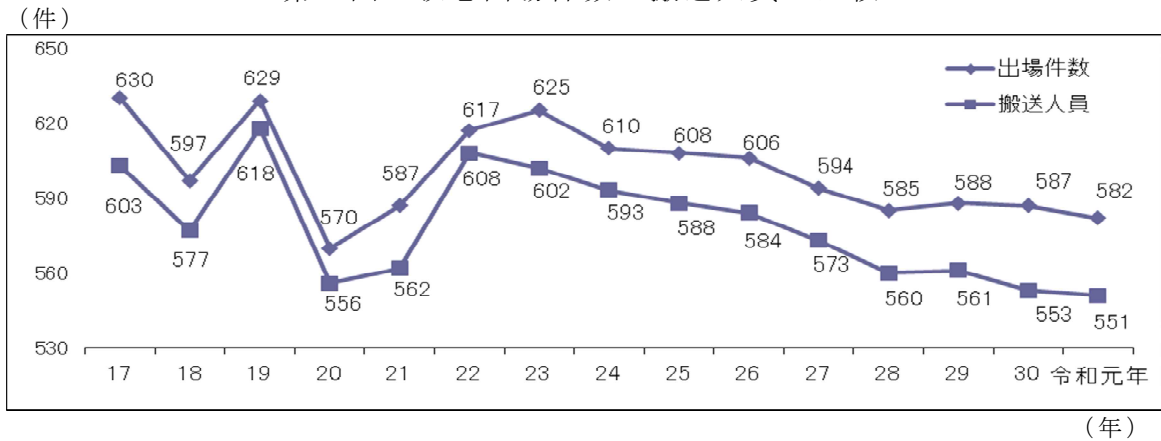
一人でも多くの人を救いたい

1 救急業務の実施状況

1. 救急出場件数および搬送人員…町民 15 人に 1 人を搬送

令和元年の救急出場件数は 582 件（対前年比 5 件（0.9%）減）、搬送人員は 551 人（対前年比 2 人（0.4%）減）。1 日平均出場件数は 1.59 件（前年 1.61 件）となっており、1 年間に町民（令和元年 4 月 1 日現在の人口 8,234 人）15 人（前年 15 人）に 1 人が救急搬送されたこととなる。（第 1 図、第 1 表参照）

第 1 図 救急出場件数と搬送人員の比較



※平成 17 年以降の久万高原町の統計

第 1 表 年別救急活動の推移

年	救急出場件数		搬 送 人 員	
	件数	対前年増減率	人員	対前年増減率
17	630	▲17.2	603	▲16.1
18	597	▲5.2	577	▲4.3
19	629	5.3	618	7.1
20	570	▲9.4	556	▲10.0
21	587	2.9	562	1.1
22	617	5.1	608	8.2
23	625	1.3	602	▲1.0
24	610	▲2.4	593	▲1.5
25	608	▲0.3	588	▲0.9
26	606	▲0.2	584	▲0.7
27	594	▲2.1	573	▲1.9
28	585	▲1.5	560	▲2.3
29	588	0.5	561	0.2
30	587	▲0.2	553	▲1.4
令和元年	582	▲0.9	551	▲0.4
累計	9,015	—	8,689	—

2. 事故種別救急出場件数および搬送人員

出場件数 582 件を事故種別で見ると、急病 281 件 (48.3%)、次いで転院搬送 143 件 (24.6%)、一般負傷 104 件 (17.9%) となっており、上位 3 種別で全体の 90.7% を占めている。(第 2 表参照)

また、搬送人員 551 人を年齢区分別に見ると、高齢者が 429 人で全体の 77.9% を占めている。(第 3 表参照)

第 2 表 事故種別救急出場件数および搬送人員

事故種別	令和元年中		平成30年中		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病	281	48.3%	301	51.3%	▲ 20	▲6.6%
	267	48.5%	281	50.8%	▲ 14	▲5.0%
一般負傷	104	17.9%	91	15.5%	13	14.3%
	96	17.4%	87	15.7%	9	10.3%
交通事故	28	4.8%	32	5.5%	▲ 4	▲12.5%
	26	4.7%	32	5.8%	▲ 6	▲18.8%
労働災害	9	1.5%	7	1.2%	2	28.6%
	9	1.6%	7	1.3%	2	28.6%
自損行為	6	1.0%	4	0.7%	2	50.0%
	2	0.4%	2	0.4%	0	0.0%
火災						
加害						
運動競技	6	1.0%	0		6	-
	6	1.1%	0		6	-
水難	1	0.2%	0		1	-
	0	0.0%	0			
自然災害						
転院	143	24.6%	143	24.4%	0	0.0%
	143	26.0%	143	25.9%	0	0.0%
その他	4	0.7%	9	1.5%	▲ 5	▲55.6%
	2	0.3%	1	0.2%	1	100.0%
合計	582	100.0%	587	100.0%	▲ 5	▲0.9%
	551	100.0%	553	100.0%	▲ 2	▲0.4%

第 3 表 年齢区分別事故種別搬送人員

(551 人)

年齢区分 事故種別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病		8	3	26	230	267
		3.0%	1.1%	9.7%	86.1%	48.5%
一般負傷		6	1	26	63	96
		6.3%	1.0%	27.1%	65.6%	17.4%
交通事故				20	6	26
				76.9%	23.1%	4.7%
転院		2	3	16	122	143
		1.4%	2.1%	11.2%	85.3%	26.0%
その他			2	9	8	19
			10.5%	47.4%	42.1%	3.4%
計	0	16	9	97	429	551
	0.0%	2.9%	1.6%	17.6%	77.9%	100%

第 4 表 月別・事故種別救急出場件数

(582 件)

月 事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	28	20	18	24	29	23	26	28	23	30	15	17	281
一般	6	16	4	8	10	4	7	9	7	9	14	10	104
交通	1	0	3	1	5	3	1	2	1	4	5	2	28
その他	1	2	3	2	3	0	4	2	3	2	2	2	26
転院	12	9	13	11	9	16	10	13	11	10	17	12	143
計	48	47	41	46	56	46	48	54	45	55	53	43	582

第 5 表 曜日別救急出場件数

(582 件)

曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
出場件数	69	80	93	95	106	55	84	582

第 6 表 時間帯別・事故種別出場件数

(582 件)

時間 事故種別	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他		計
											転院	その他	
0～2							2			11	3		16
2～4							1			10			11
4～6				1						9	1		11
6～8				1			4			15	2		22
8～10				5	5		12		1	38	28		89
10～12				6	1	1	16		2	42	31		99
12～14			1	3	1	2	13		1	38	18	2	79
14～16				4	1	1	14		1	19	28		68
16～18				4	1		10		1	30	20	2	68
18～20				2		2	18			24	7		53
20～22				2			12			32	3		49
22～24							2			13	2		17
計	0	0	1	28	9	6	104	0	6	281	143	4	582

第 7 表 住居区分別・事故種別搬送人員

(551 人)

住居区分 事故種別	急病	一般負傷	交通事故	転院	その他	計
町内居住者	248	77	7	133	9	474
	92.9%	80.2%	26.9%	93.0%	47.4%	86.0%
町外居住者	19	19	19	10	10	77
	7.1%	19.8%	73.1%	7.0%	52.6%	14.0%
計	267	96	26	143	19	551
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

第 8 表 発生場所別・事故種別搬送人員

(551 人)

発生場所 事故種別	急病	一般負傷	交通事故	その他	計
住宅	213	53		1	267
	79.8%	55.2%		0.6%	48.5%
公衆出入場所	29	12	1	6	48
	10.9%	12.5%	3.8%	3.7%	8.7%
仕事場	3			6	9
	1.1%			3.7%	1.6%
道路	8	8	25	2	43
	3.0%	8.3%	96.2%	1.2%	7.8%
その他	14	23		4	41
	5.2%	24.0%		2.5%	7.4%
病院(転院)				143	143
				88.3%	26.0%
計	267	96	26	162	551
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3. 医療機関別搬送人員の状況

救急搬送人員 551 人中、救急告示医療機関への搬送は 475 人 (86.2%)、救急告示医療機関以外 (三次医療機関含む) への搬送は 76 人 (13.8%) となっている。
(第 9 表、第 10 表参照)

第 9 表 開設区分・告示区分別搬送人員

(551 人)

開設区分 告示区分	医療機関						その他の場所		計
	国立	公立	公的	私的病院	私的診療所	計	ドクターヘリ 消防中継 防災中継	警察等	
救急告示	17	268	64	91	35	475			475
	(17)	(38)	(64)	(91)		(210)			(210)
非告示	2	23		3	34	62	14		76
	(2)	(23)		(3)	(2)	(30)			(30)
計	19	291	64	94	69	537	14		551
	(19)	(61)	(64)	(94)	(2)	(240)			(240)

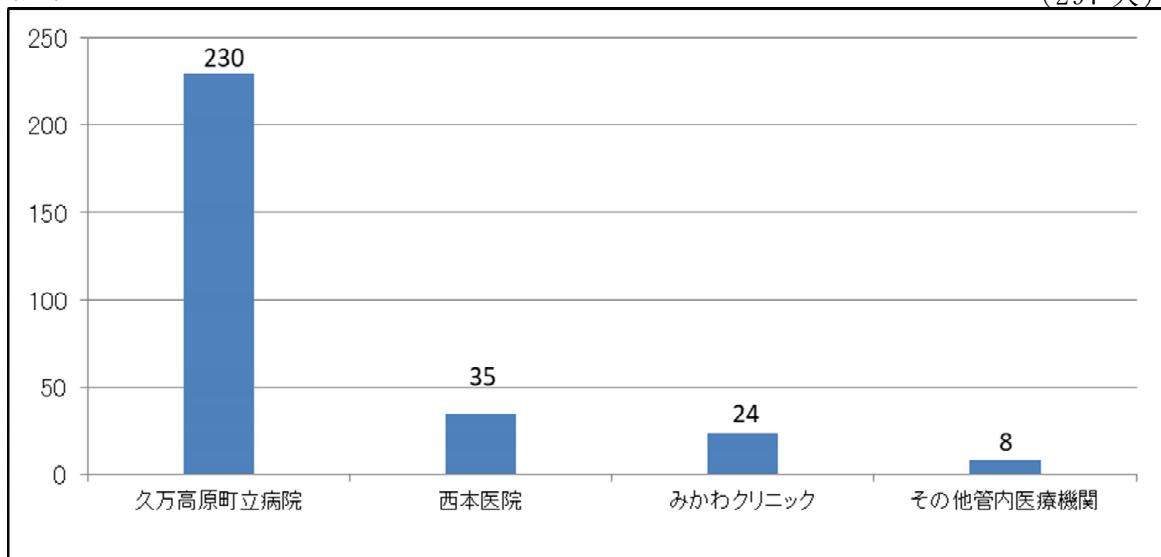
注 1. () は管外の医療機関に搬送された人員である

管内医療機関に搬送された 297 人 (53.9%) について、医療機関別の状況は、久万高原町立病院 230 人 (77.4%)、西本医院 35 人 (11.8%)、みかわクリニック 24 人 (8.1%)、うつのみや内科 8 人 (2.7%)、となっている。管外医療機関に搬送された 254 人 (46.1%) のうち、転院搬送人員は 143 人で管外搬送人員の約 60%を占めている。
(第 2 図、第 10 表参照)

第 2 図 管内医療機関別収容人員

(人)

(297 人)



第 10 表 医療機関別搬送人員一覧表

(551 人)

管内医療機関	医療機関名		開設	人員	内転院
	告示	久万高原町立病院	公立	230	3
	社団マリナ会西本医院	私的	35		
非告示	みかわクリニック	私的	24		
	うつのみや内科	私的	8		
合計			297	3	
管外医療機関	救急告示	愛媛大学医学部附属病院	国立	6	3
		国立病院機構愛媛医療センター	国立	11	5
		愛媛県立中央病院	公立	38	25
		松山赤十字病院	公的	36	21
		済生会松山病院	公的	28	17
		松山市民病院	私的	24	12
		南松山病院	私的	17	6
		愛媛生協病院	私的	6	3
		平成脳神経外科病院	私的	10	2
		奥島病院	私的	15	10
		梶浦病院	私的	9	7
		笠置記念病院	私的	2	
		野本記念病院	私的	6	3
		浦屋病院	私的	0	
		渡辺病院	私的	1	
	松山城東病院	私的	1	1	
	合計			210	115
非告示	国立病院四国ガンセンター	国立	2		
	救命救急センター	公立	23	13	
	その他県内	私的	5	3	
合計			30	16	
特殊	ドクターヘリ(県外ドクターヘリ含む)		14	9	
	他消防機関(消防防災ヘリ)へ中継		0		
	久万高原警察署・その他		0		
総計			551	143	

4. 傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度を重症度順に見ると、死亡 18 (3.3%)、重症 70 (12.7%)、中等症 251 (45.6%)、軽症 139 (25.2%)、その他 73 (13.2%) となっている。

また、年齢区分別に傷病程度を見ると、重症以上は成人 7.2%、高齢者 18.9% (死亡 4.2%・重症 14.7%) であり、高齢者ほど重症率が高くなっている。

(第 11 表、第 12 表参照)

第 11 表 事故種別傷病程度

傷病程度 事故種別	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	13	28	113	76	37	267
	4.9%	10.5%	42.3%	28.5%	13.9%	100.0%
交通事故		1	8	13	4	26
		3.8%	30.8%	50.0%	15.4%	100.0%
一般負傷	3	10	39	34	10	96
	3.1%	10.4%	40.6%	35.4%	10.4%	100.0%
その他	2	31	91	16	22	162
	1.2%	19.1%	56.2%	9.9%	13.6%	100.0%
計	18	70	251	139	73	551
	3.3%	12.7%	45.6%	25.2%	13.2%	100.0%

第 12 表 年齢区分別傷病程度

傷病程度 年齢区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
新生児						
乳幼児			3	11	2	16
			18.8%	68.8%	12.5%	100.0%
少年			3	6		9
			33.3%	66.7%		100.0%
成人		7	31	46	13	97
		7.2%	32.0%	47.4%	13.4%	100.0%
高齢者	18	63	214	76	58	429
	4.2%	14.7%	49.9%	17.7%	13.5%	100.0%
計	18	70	251	139	73	551
	3.3%	12.7%	45.6%	25.2%	13.2%	100.0%

第 13 表 死亡による不搬送

事故種別	急病		自損		一般負傷		その他		計	
	死亡	9件	9人	4件	4人	1件	1人	0件	0人	14件

※搬送拒否、途中帰署等を含めた不搬送件数の総数は 28 件となっている

5. 急病に係る疾病分類別搬送人員の状況

疾病分類別傷病程度別にみると、死亡の 11 人が心疾患に因るものであり、年齢区分別傷病程度別にみると、中等症以上の高齢者は 63.5%（死亡 5.7%、重症 11.3%、中等症 46.5%）と、成人の中等症以上 23.1%（重症 7.7%、中等症 15.4%）の約 2.7 倍となっている。（第 14 表、第 15 表、第 16 表参照）

第 14 表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員

年齢区分		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
循環系	脳疾患				2 6.7%	28 93.3%	30 11.2%
	心疾患				1 2.6%	37 97.4%	38 14.2%
消化系					2 7.7%	24 92.3%	26 9.7%
呼吸系			2 7.4%		2 7.4%	23 85.2%	27 10.1%
精神系					2 100.0%		2 0.8%
感覚系				1 12.5%		7 87.5%	8 3.0%
泌尿系						9 100.0%	9 3.4%
新生物						4 100.0%	4 1.5%
その他 不明確			6 4.9%	2 1.6%	17 13.8%	98 79.7%	123 46.1%
計			8 3.0%	3 1.1%	26 9.7%	230 86.2%	267 100.0%

第 15 表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員

傷病程度		死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
年齢区分	新生児						
	乳幼児			2 25.0%	6 75.0%		8 3.0%
少年					3 100.0%		3 1.1%
	成人		2 7.7%	4 15.4%	16 61.5%	4 15.4%	26 9.7%
高齢者		13 5.7%	26 11.3%	107 46.5%	51 22.2%	33 14.3%	230 86.1%
	計	13 4.9%	28 10.5%	113 42.2%	76 28.5%	37 13.9%	267 100.0%

第 16 表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員

傷病程度		死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
疾病分類							
循環系	脳疾患		9 30.0%	16 53.3%	5 16.7%		30 11.2%
	心疾患	11 28.9%	7 18.4%	15 39.5%	5 13.2%		38 14.2%
消化系			3 11.5%	13 50.0%	10 38.5%		26 9.7%
呼吸系		1 3.7%	3 11.1%	19 70.4%	4 14.8%		27 10.1%
精神系				1 50.0%	1 50.0%		2 0.8%
感覚系				1 12.5%	7 87.5%		8 3.0%
泌尿系			1 11.1%	6 66.7%	2 22.2%		9 3.4%
新生物				4 100.0%			4 1.5%
その他 不明確		1 0.8%	5 4.1%	38 30.9%	42 34.1%	37 30.1%	123 46.1%
計		13 4.9%	28 10.5%	113 42.3%	76 28.5%	37 13.8%	267 100.0%

6. 現場到着所要時間別出場件数の状況

救急出場件数 582 件のうち、転院搬送 143 件、出場途上辞退 2 件、医師搬送 2 件を除く 435 件について現場到着所要時間をみると、現場到着に 10 分以上要したものが 243 件（55.9%）であった。また、現場到着平均所要時間は 13.7 分（前年 14.6 分）となり、前年と比べ 0.9 分短縮している。

（第 17 表参照）

第 17 表 現場到着所要時間別・事故種別出場件数

事故種別	現場到着所要時間					計	現場到着平均時間
	3分未満	3分～5分未満	5分～10分未満	10分～20分未満	20分以上		
急病	6	15	104	90	65	280	13.2
交通	1	3	12	5	6	27	12.9
一般負傷	3	3	33	37	28	104	15.3
その他	0	2	10	4	8	24	14.6
計	10	23	159	136	107	435	13.7
転院	15	38	75	10	5	143	5.6
総計	25	61	234	146	112	578	11.7

全国の統計（平成 30 年消防白書）では、現場到着所要時間は平均 8.7 分となっている。

7. 収容所要時間別搬送人員の状況

搬送人員 551 人のうち、転院搬送 143 人を除く病院収容した 408 人についての収容所要時間別（覚知～医療機関などに引き継ぐまでに要した時間）の状況は、30 分以上～60 分未満が最も多く 141 人（34.6%）であった。収容平均所要時間は 52.8 分（前年 51.6 分、1.2 分増）となっており、長時間の救急活動となる場合が多くなっている。（第 18 表参照）

第 18 表 収容所要時間別・事故種別搬送人員の状況

収容所要時間 事故種別	10分未満	10分～ 20分未満	20分～ 30分未満	30分～ 60分未満	60分～ 120分未満	120分 以上	計	収容平均 所要時間
急病	1	17	61	96	87	5	267	50.6
交通		3	5	9	8	1	26	53.6
一般負傷		8	16	32	35	5	96	57.4
その他		2	5	4	8		19	59.3
計	1	30	87	141	138	11	408	52.8
転院		1	5	115	22		143	52.0
総計	1	31	92	256	160	11	551	52.6

全国の統計（平成 30 年消防白書）では、収容所要時間は平均 39.5 分となっている。

第 19 表 ドクターヘリ運航状況

年	平成29年	30年	令和元年
件数	17	20	13

※平成 29 年 2 月から運航開始

第 20 表 ドクターカー運行状況

年	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
件数	3	1	4	7	1	6	4	3	1	1

※平成 22 年 3 月から運行開始

第 21 表 救急隊員の行った応急処置状況

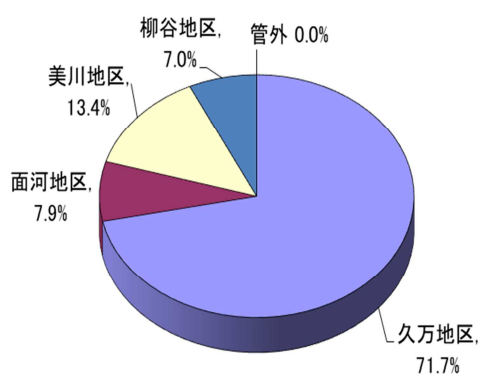
事 故 種 別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員	282	29	104	168	583
止 血	1	5	12	1	19
固 定	1	9	16	20	46
人 工 呼 吸	5		2	2	9
酸 素 吸 入	96	4	15	47	162
保 温	25	3	16	13	57
被 覆		6	23		29
胸 骨 圧 迫	2		2		4
心 肺 蘇 生	13		3	2	18
* うち自動式心マッサージ器	1				1
* 在宅療法継続				1	1
* ショックパンツ					0
* 血 圧 測 定	242	26	86	157	511
* 心音呼吸音聴取	33	5	12	7	57
* 血中酸素飽和度測定	251	27	91	156	525
* 心電図測定等	152	2	27	61	242
気 道 確 保	16		3	4	23
* うち経鼻エアウェイ					0
* うち喉頭鏡・鉗子等					0
◎ * うちラリングアルマスク等	6		1	1	8
◎ * うち気管挿管					0
* 除 細 動	3				3
◎ * 静 脈 路 確 保 CPA前					0
◎ * 静 脈 路 確 保 CPA後	1		1	1	3
◎ * 薬 剤 投 与 アドレナリン					0
◎ * 薬 剤 投 与 ブドウ糖					0
◎ * 血 糖 測 定	1				1
そ の 他	271	21	97	150	539
合 計	1,120	108	407	623	2,258
* 拡大された応急処置等	690	60	218	384	1,352
◎うち特定7項目	8	0	2	2	12

第 22 表 地区別救急出場件数の増減

地区 件数	久万高原町					町外	計
	全 体	久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区		
令和元年	582	417	46	78	41	0	582
	100.0%	71.7%	7.9%	13.4%	7.0%	0.0%	100.0%
うち転院を除く	439	283	46	71	39	0	439
	100.0%	64.4%	10.5%	16.2%	8.9%	0.0%	100.0%
平成30年	587	389	51	91	51	5	587
増 減	▲ 5	28	▲ 5	▲ 13	▲ 10	▲ 5	▲ 5
増 減 率	-0.9%	7.2%	-9.8%	-14.3%	-19.6%	-100.0%	-0.9%

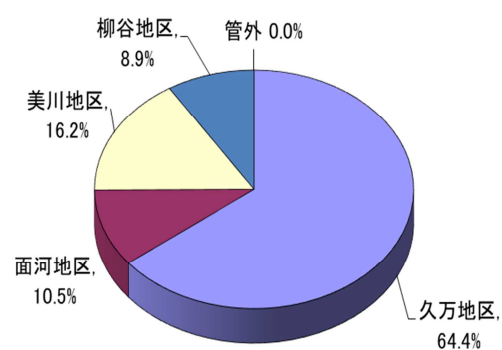
第 3 図 地区別救急出場件数

(582 件)



第 4 図 転院を除く地区別救急出場件数

(439 件)



第 23 表 普通救命講習 I 実施状況

(令和元年中)

番号	受講日	講習時間	受講団体名	受講者数	修了証 交付者数	派遣人員
1	4月 22日	3:00	くま安心館	11	3	※ 2
2	5月 13日	3:00	久万中学校	39	37	※ 3
3	5月 15日	3:00	株式会社 石丸建設	8	0	※ 2
4	5月 20日	3:00	上浮穴高校	32	9	※ 3
5	5月 22日	3:00	久万小学校	14	4	※ 3
6	5月 26日	3:00	町内教職員	8	0	※ 2
7	5月 30日	3:00	町内教職員	39	18	※ 3
8	5月 31日	3:00	町内教職員	22	5	※ 3
9	6月 6日	3:00	美川中学校	36	4	※ 2
10	6月 7日	3:00	フォレストワーカー養成コース	20	20	※ 3
11	6月 17日	3:00	林業労働力確保支援センター	7	7	※ 1
12	7月 11日	3:00	久万の里	19	14	※ 2
13	7月 25日	3:00	介護支援施設しるもとグループ、いこいの郷	24	8	※ 4
14	8月 23日	3:00	渋草女性防火クラブ	8	1	※ 1
15	9月 7日	3:00	防災士	13	13	2
16	9月 11日	3:00	防災士	10	10	2
17	9月 20日	3:00	育和会 久万こども園	24	2	※ 2
18	9月 21日	3:00	防災士	5	5	1
19	9月 28日	3:00	育和会 久万こども園	11	3	※ 2
合計		57:00	14団体	350	163	43

※は新規講習と再講習の実施団体（再講習の人数は含まれていない）

第 24 表 救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	その他
上級救命講習	568	36	394	56	15	23	44
普通救命講習	6,243	363	462	274	942	3,287	915
総修了者数	6,811	399	856	330	957	3,310	959

8. 応急手当・口頭指導の実施状況

(1) 応急手当の実施状況

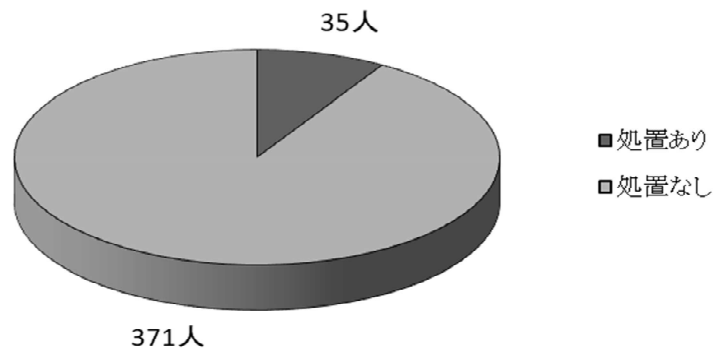
令和元年中の搬送人員 551 人のうち、転院搬送及びその他の 145 人を除く 406 人について、救急隊到着以前の応急手当の実施についてみると 35 人（8.6%）が応急手当を受けており、平成 30 年（409 人中 27 人・6.6%）と比較して増加している。また、事故種別ごとの応急手当の実施について見ると、一般負傷において 21 人（21.9%）と前年 11 人（12.6%）から増加し、最も多くなっており、次いで急病 12 人、交通事故 1 人、運動競技 1 人となっている。

応急手当の内容を見ると、胸骨圧迫 10 件、止血 8 件、AED 使用 6 件、移動 6 件、固定 4 件、体位管理 4 件、心肺蘇生法 3 件、被覆 1 件となっており、応急手当の実施者については家族が 17.1%を占めている。

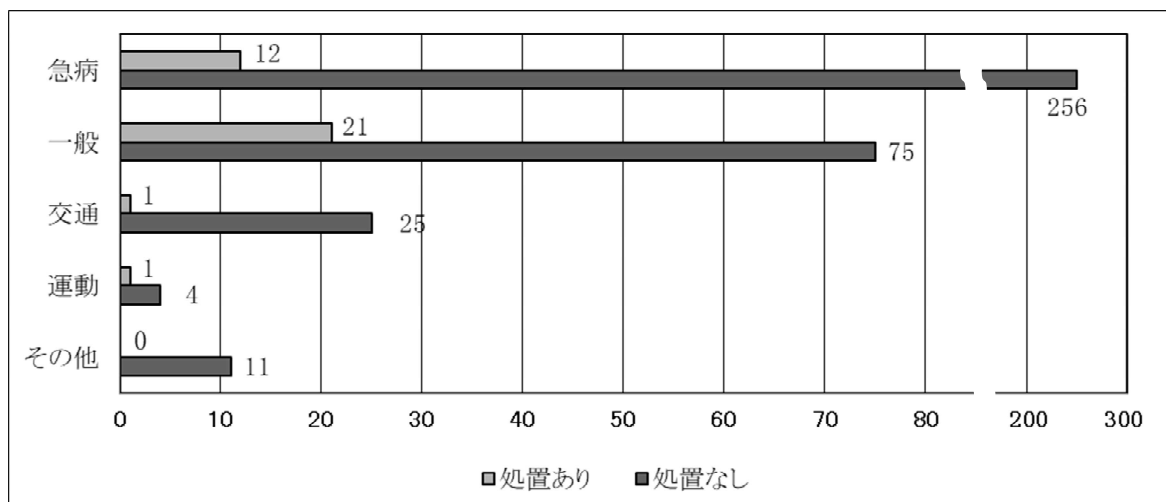
（第 5・6・7・8 図参照）

第 5 図 応急手当実施状況

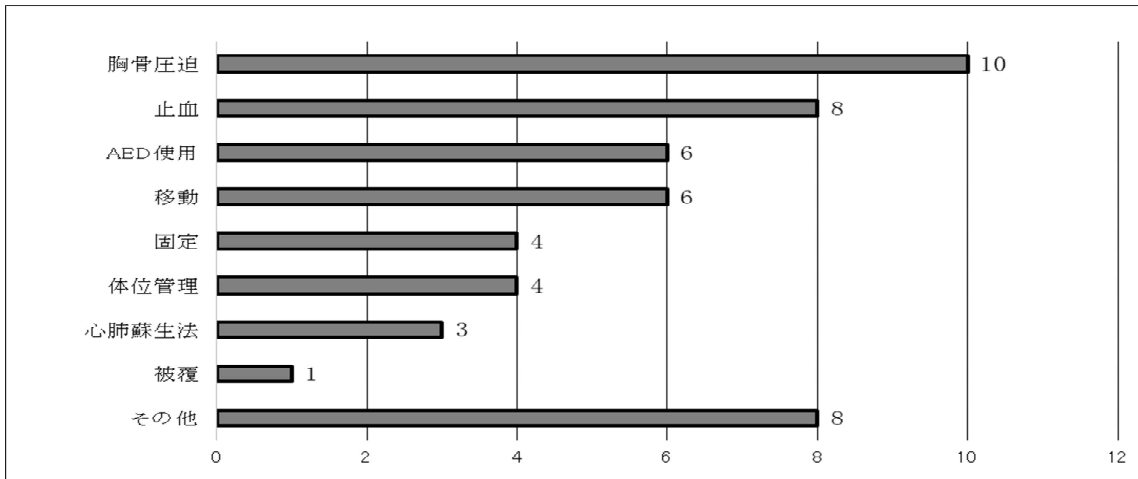
（406 人）



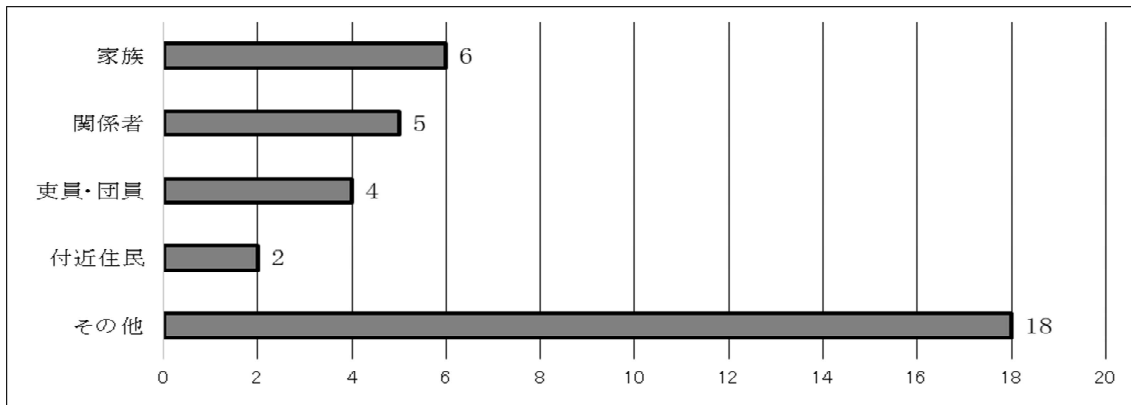
第 6 図 事故種別別応急手当実施状況



第7図 応急手当内容



第8図 応急手当実施者



(2) 救急通報受信中における通報者等に対する応急手当の指導（以下、口頭指導という）状況について

令和元年中の救急事案件数 582 件のうち、口頭指導を実施した事案は 23 件、指導合計数は 28 件（重複あり）であった。また、口頭指導による応急手当の実施は 25 件（89.3%）、未実施は 3 件（10.7%）となっている。

（第 25 表参照）

第 25 表 令和元年中の口頭指導状況

口 頭 指 導 の 項 目	指導件数
胸骨圧迫・人工呼吸などに関するもの	14件
止血・被覆などに関するもの	5件
AEDの準備などに関するもの	3件
その他（異物除去・保温・体位管理）	6件
合 計	28件

※指導回数には複数項目の場合が存在するため回数と件数は一致しない

第 26 表 久万高原町内 AED 設置箇所状況 （総設置箇所 63 箇所）

久 万 地 区		面 河 地 区	
1 久万高原町役場(本庁)【寄贈】	24 松山市農協久万支所 【私設置】	1 面河体育館	
2 久万B&G海洋センター	25 うつのみや内科	2 おもご高齢者生活支援ハウス	
3 養護老人ホーム「ささゆり荘」	26 高橋歯科医院	3 若山集会所	
4 老人保健施設「あけぼの」	27 わたなべ歯科医院	4 相ノ峰公民館【私設置】	
5 久万高原町産業文化会館	28 I Cランド土居	5 面河診療所	
6 久万高原町教育委員会	29 道の駅「天空の郷さんさん」	6 消防団多機能車両（里成）	
7 久万小学校	30 道の駅防災センター	美 川 地 区	
8 直瀬小学校	31 久万カントリークラブ	1 久万高原町役場（美川支所）	
9 明神小学校	32 高原ゴルフクラブ	2 美川小学校	
10 父二峰小学校	33 入野福祉館	3 仕七川小学校	
11 畑野川小学校	34 農業公園アグリピア	4 美川中学校	
12 久万中学校	35 大宝寺【私設置】	5 岩屋寺【私設置】	
13 上浮穴高校【県設置】	36 久保建設【私設置】	6 仕七川駐在所	
14 久万高原町立病院	37 石丸建設【私設置】	7 美川中学校「若竹寮」	
15 父二峰診療所	38 くま安心館【寄贈】	8 みかわクリニック	
16 国民宿舎「古岩屋荘」	39 グループホーム「サマリア」【寄贈】	9 小椋商店	
17 久万スキーランド【私設置】	40 グループホーム「メサイア」【寄贈】	柳 谷 地 区	
18 ふるさと旅行村【寄贈】	41 久万ボクシングジム【私設置】	1 久万高原町役場(柳谷支所)	
19 畑野川歯科【県歯科医師会設置】	42 まちなか交流館	2 柳谷小学校	
20 久万高原警察署		3 四国電力面河発電所	
21 四国電力久万営業所		4 消防団多機能車両（落出）	
22 久万こども園		5 中津公民館	
23 伊予銀行久万支店【私設置】		6 古味集会所	

救 助 編



危険に立ち向かうオレンジの精鋭

救助活動体制の現状

救助活動状況の推移

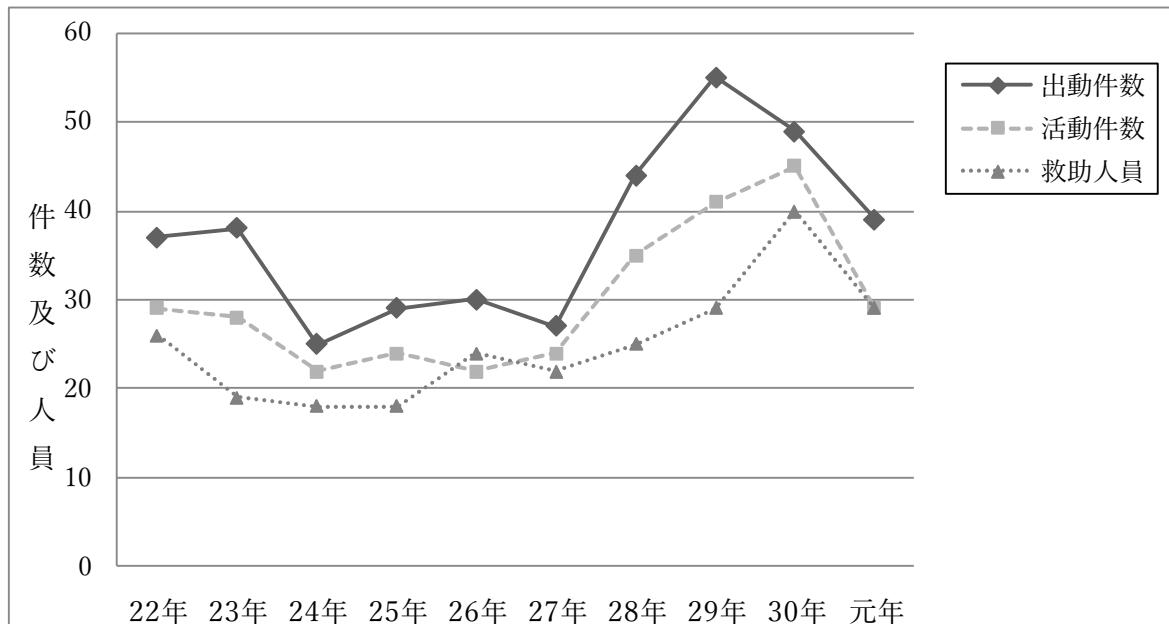
令和元年における出動件数は39件、このうち活動件数は29件、救助人員は29人で、前年に比べ、いずれも減少となっている。

(第1表 第1図参照)

第1表 過去10年間の救助活動状況の推移

区 分 年 別	救 助 出 動 件 数		救 助 活 動 件 数		救 助 人 員	
	件数	増減率(%)	件数	増減率(%)	人員	増減率(%)
22年	37	△11.9	29	△21.6	26	△3.7
23年	38	2.7	28	3.5	19	△3.7
24年	25	△34.2	22	△21.4	18	△5.3
25年	29	16.0	24	9.0	18	—
26年	30	3.4	22	△8.3	24	33.3
27年	27	△10.0	24	9.1	22	△8.3
28年	44	63.0	35	45.8	25	13.6
29年	55	25.0	41	17.1	29	16
30年	49	△8.9	42	2.4	40	37.9
令和元年	39	△20.0	29	△31.0	29	△27.0

第1図 救助出動状況と救助人員



(2) 事故種別状況

事故種別出動件数は、ドクターヘリ支援が16件（44.5%）、次いで救急応援が7件（16.5%）となっており、全体の61%を占めている。ドクターヘリ支援についてはその有効性が重要視されており、昨年の13件と比較して増加している。

（第2表参照）

第2表 事故種別状況

事故種別 件数 及び人員		火	交通	機	建	防	ヘ	救	捜	山	そ	合
		災	事	械	物	災	ド	急	索	岳	他	計
出動	件数	1	1	1	1	1	16	7	5	2	4	39
	構成比(%)	2.6%	2.6%	2.9%	2.6%	2.6%	44.5%	16.5%	12.3%	4.1%	9.3%	100%
活動	件数	1	1	1	-	1	14	5	2	1	3	29
	構成比(%)	3.4%	3.4%	3.4%	-	3.4%	48.3%	17.5%	6.9%	3.4%	10.3%	100%
人員	人員数	-	1	1	-	-	14	5	4	1	3	29
	構成比(%)	-	3.7%	4.0%	-	-	43.0%	26.0%	8.7%	3.7%	10.9%	100%
過去の 出動	過去10年合計	50	41	11	2	11	47	70	43	71	23	369
	過去10年平均	5	4	2	1	2	5	7	4	7	2	39

（注）火災による出動・活動件数は、建物火災のみ計上。



(3) 災害出動人員及び活動人員の状況

出動人員及び活動人員数はドクターヘリ支援が最も多く、次いで救急応援となっている。

(第3表・第2図参照)

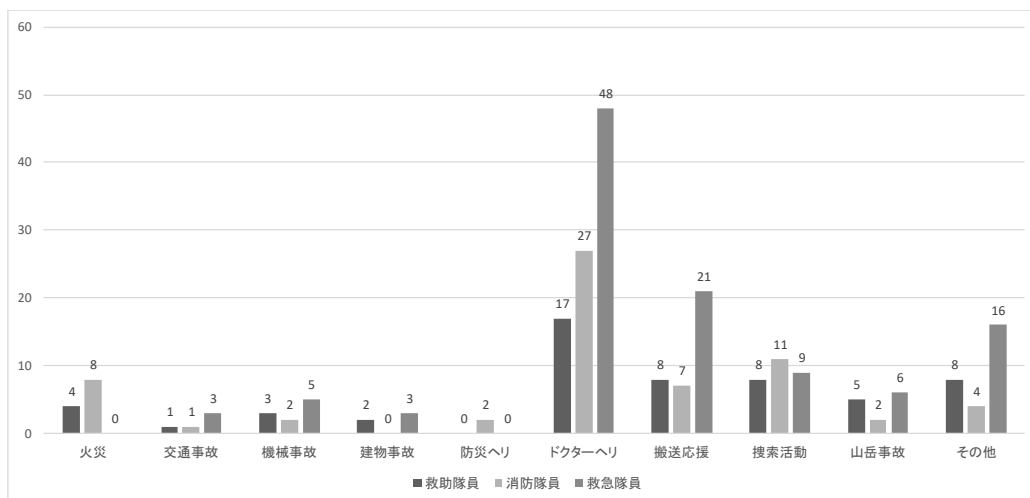
第3表 事故種別出動人員の状況

事故種別 出動人員及び活動人員		火災	交通事故	機械事故	建物事故	支防 災ヘリ 援	ドク ター ヘリ 支 援	搬 送 応 援	捜 索 活 動	山 岳 事 故	そ の 他	合 計
救助隊員	出動人員	4	1	3	2	-	17	8	8	5	8	56
	活動人員	4	1	3	-	-	12	5	3	3	6	37
消防隊員	出動人員	8	1	2	-	2	27	7	11	2	4	64
	活動人員	8	1	2	-	-	25	6	9	1	4	56
救急隊員	出動人員	-	3	5	-	-	48	21	9	6	16	108
	活動人員	-	3	5	-	-	39	15	6	3	13	84
合計	出動人員	12	5	10	-	-	92	36	28	12	28	223
	活動人員	12	5	10	0	0	76	26	18	7	23	177

(注) ア. 各欄の上段「出動」は救助活動を行うために出動した人員、下段「活動」は救助活動を行うために出動し、現場活動を行った人員を示す。

イ. 火災の出動及び活動人員は、現場に出動した救急、救助、消防隊員の数を算上。

第2図 事故種別出動人員



(4) 主な救助活動

※39 件中の 5 件を抜粋。

※出動人員については消防本部・署の出動人員（消防隊・救急隊含む）のみ計上。

(第 4 表参照)

第 4 表 令和元年の主な救助活動

番号 (人)	種別	発生月	発生場所	出動人員
				救助人員
1	その他事故	2 月	久万高原町 久万地区	7 人
				1 人
2	機械事故	2 月	久万高原町 有枝地区	10 人
				1 人
3	その他事故	9 月	久万高原町 柳谷地区	10 人
				1 人
4	山岳事故	10 月	石鎚山系	6 人
				1 人
5	搜索	11 月	久万高原町 久万地区	9 人
				1 人

予 防 編

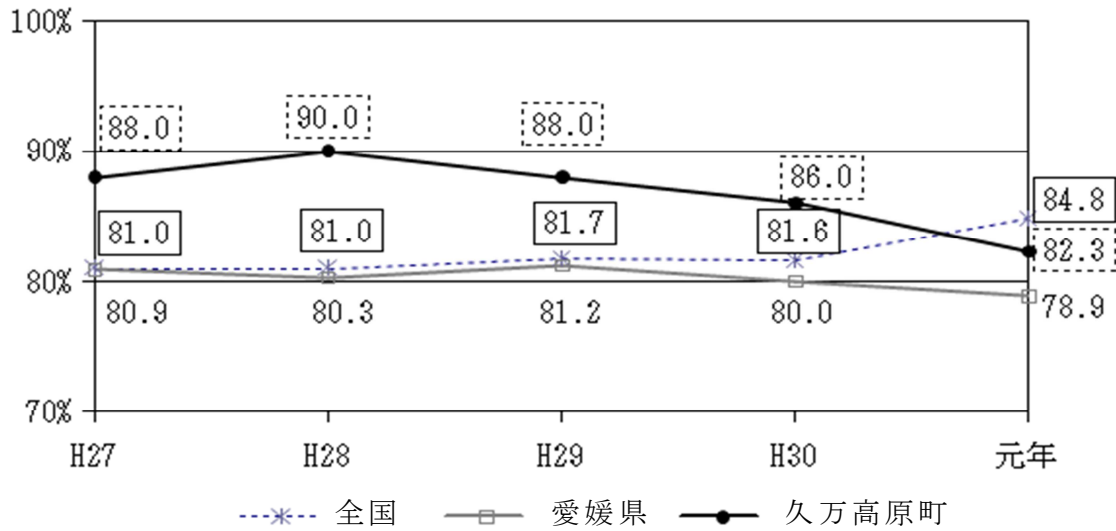


火災予防 私たちにできること！

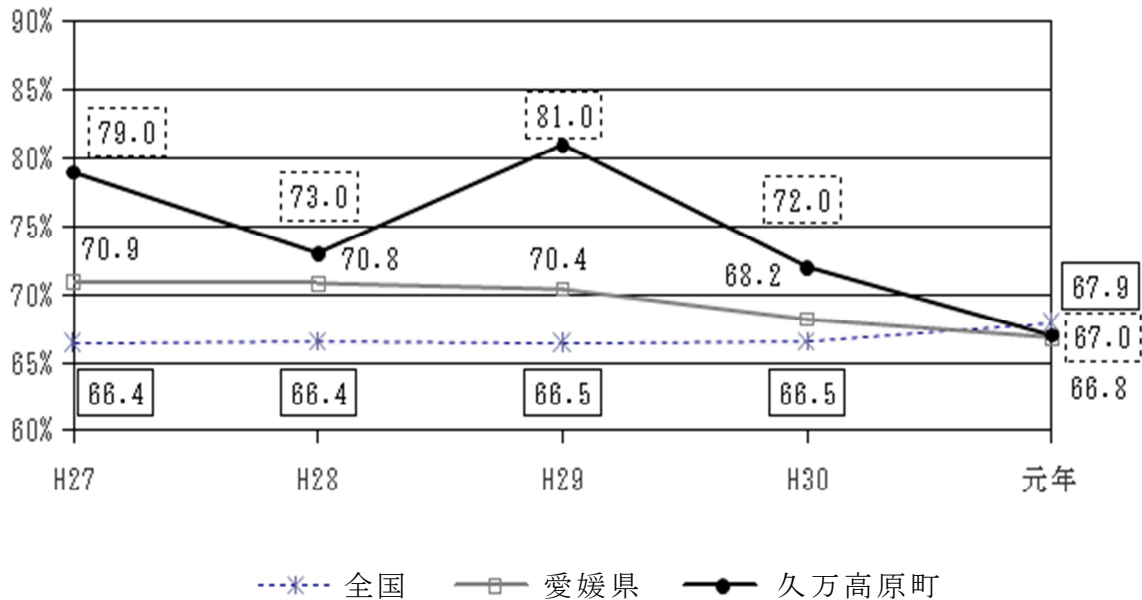
予防行政の現状

1. 住宅防火対策

第1図 住宅用火災警報器設置率の推移



第2図 条例適合率の推移



※ 第1図・第2図は標本調査のため、各数値は一定の誤差を含む。

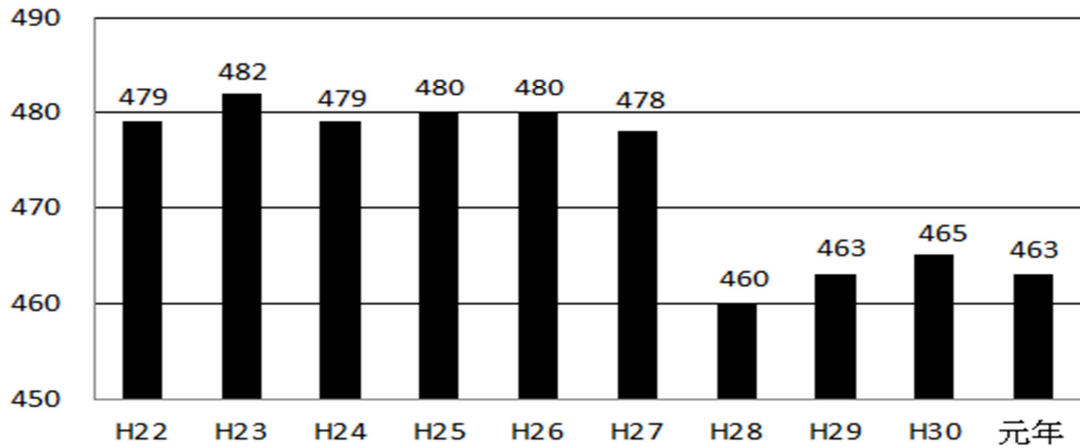
2. 防火対象物

第1表 用途・地区別防火対象物数

		久万地区			面河地区			美川地区			柳谷地区			合計			
		H30	元年	増減	H30	元年	増減	H30	元年	増減	H30	元年	増減	H30	元年	増減	
1	イ	劇場・映画館・演芸場等	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ロ	公会堂・集会場	19	19	-	6	6	-	10	10	-	6	6	-	41	41	-
2	イ	キャバレー・カフェ等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	遊技場・ダンスホール	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等			-			-			-			-	-	-	-
	ニ	カラオケボックス等			-			-			-			-	-	-	-
3	イ	待合・料亭の類			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	飲食店	4	4	-			-			-			-	4	4	-
4		百貨店・マーケット・その他店舗 展示場	10	10	-	1	1	-			-			-	11	11	-
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	11	11	-	5	4	-1	2	2	-	1	1	-	19	18	-1
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	24	24	-	3	3	-	7	7	-	6	5	-1	40	39	-1
6	イ	病院・診療所又は助産所	5	5	-			-	1	1	-			-	6	6	-
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	9	9	-			-			-			-	9	9	-
	ハ	老人サービス施設等	6	5	-1	1	1	-	1	1	-	1	1	-	9	8	-1
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4	4	-			-	2	2	-			-	6	6	-
7		小中高등학교・各種学校等	21	21	-			-	9	9	-	2	2	-	32	32	-
8		図書館・博物館・美術館	6	6	-	1	1	-			-			-	7	7	-
9	イ	蒸気浴場等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	公衆浴場	1	1	-			-			-			-	1	1	-
10		車両停車場			-			-			-			-	-	-	-
11		神社・寺院・教会	6	6	-			-	1	1	-			-	7	7	-
12	イ	工場・作業場	35	34	-1	2	2	-	8	8	-	1	1	-	46	45	-1
	ロ	映画スタジオ等			-			-			-			-	-	-	-
13	イ	自動車車庫・駐車場	3	2	-1			-	1	1	-			-	4	3	-1
	ロ	飛行場の格納庫			-			-			-			-	-	-	-
14		倉庫	35	37	2	3	3	-	1	1	-	2	2	-	41	43	2
15		前各項に該当しない事業場	86	87	1	2	2	-	9	9	-	18	18	-	115	116	1
16	イ	特定の複合用途対象物	33	33	-	4	4	-	8	8	-	3	3	-	48	48	-
	ロ	その他複合用途対象物	9	9	-	1	1	-	2	2	-			-	12	12	-
17		重要文化財・重要美術品	2	2	-			-	3	3	-			-	5	5	-
18		アケド			-			-			-			-	-	-	-
19		市町村長の指定する山林			-			-			-			-	-	-	-
合計			331	331	-	29	28	-1	65	65	-	40	39	-1	465	463	-2

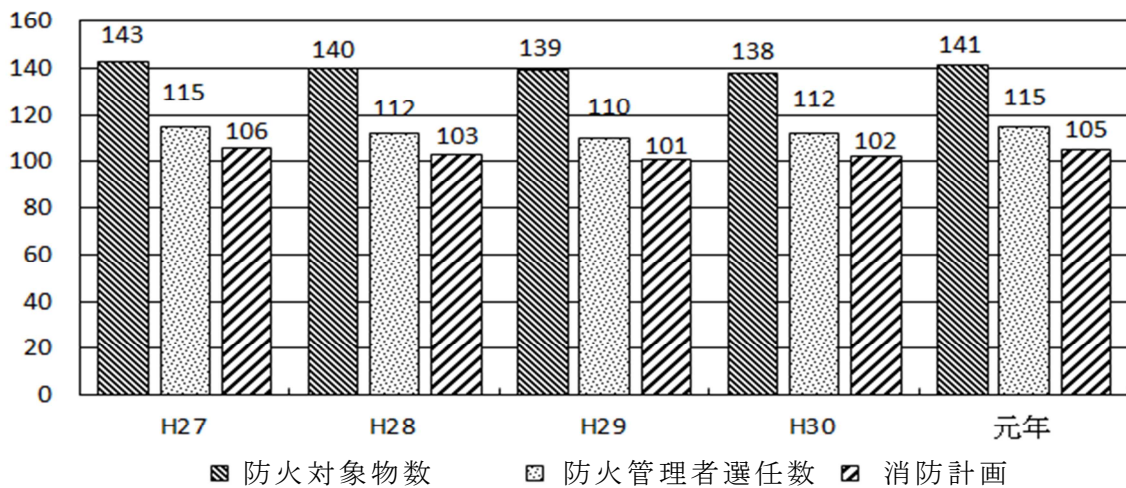
※消防法施行令別表第一に掲げる防火対象物のうち(1)項から(16)の(3)項までに掲げる防火対象物で延べ面積が150㎡以上のもの及び(17)項から(19)項に掲げる防火対象物が対象

第3図 防火対象物の推移

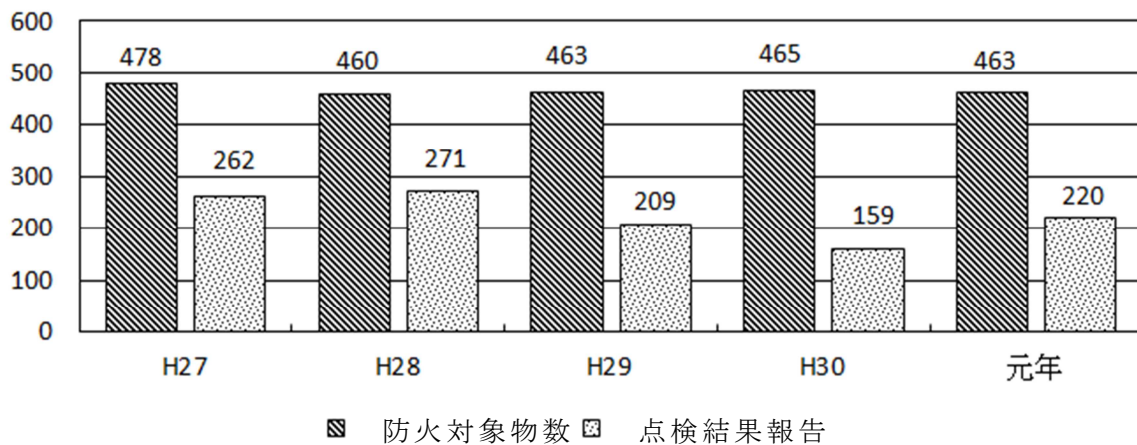


3. 防火管理実施

第4図 防火管理者選任・消防計画作成届出状況



第5図 消防用設備点検結果報告状況



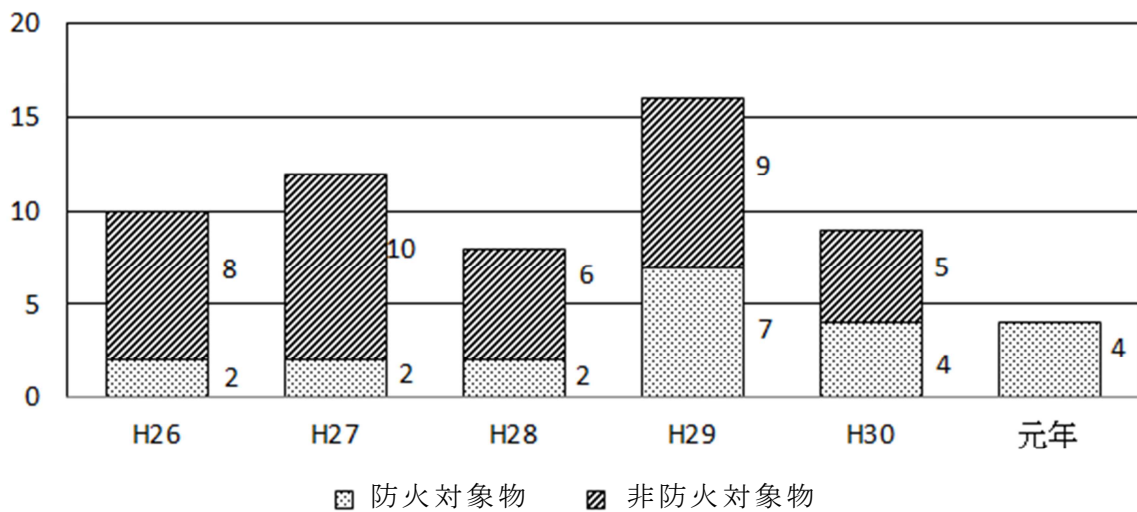
4. 立入検査実施

第2表 立入検査結果

	H27	H28	H29	H30	元年
対象物数	478	460	463	465	463
立入検査数	207	139	172	169	188
実施率	43.3%	30.2%	37.1%	36.3%	40.6%

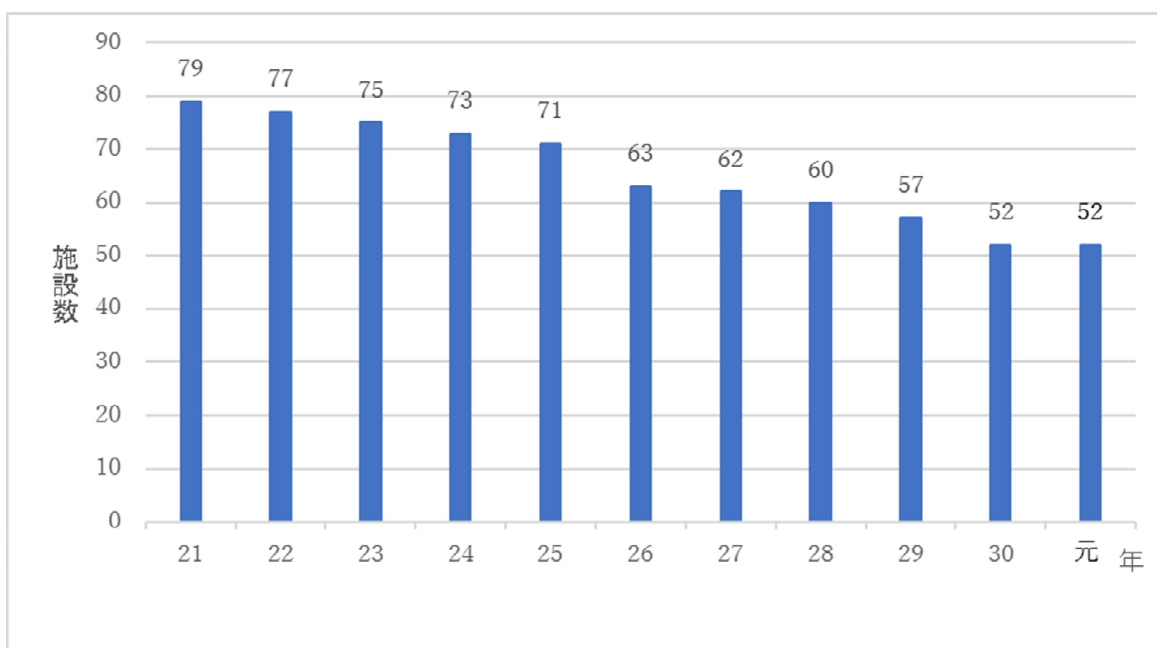
5. 消防同意

第6図 消防同意処理状況



6. 危険物

第7図 危険物施設数の推移



第3表 許可区分別・地区別危険物施設数 (令和元年12月末現在)

地区別		久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区	合計
貯蔵所	屋内	3		1		4
	屋外タンク	3		1		4
	屋内タンク	1				1
	地下タンク	7			1	8
	簡易タンク	2				2
	移動タンク	8		2 (+1)		10 (+1)
	屋外					0
取扱所	給油	11 (-1)	1	5	1	18 (-1)
	(自家用)	(3)	(1)	(1)	(0)	(5)
	一般	4		1		5
合計		39 (-1)	1	10 (+1)	2	52

() 内は前年比

高齢者の防火対策

第1表 久万高原町における高齢化率の推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
久万高原町 総人口(人)	9,748	9,440	9,177	8,944	8,671	8,495	8,299
久万高原町 高齢者数(人)	4,262	4,207	4,179	4,123	4,046	3,994	3,911
久万高原町 高齢化率(%)	43.72	44.57	45.54	46.10	46.66	47.02	47.53
愛媛県 総人口(人)	1,438,612	1,428,946	1,420,283	1,410,463	1,399,453	1,387,133	1,374,887
愛媛県 高齢者数(人)	397,589	409,546	419,554	428,008	434,035	438,049	440,710
愛媛県 高齢化率(%)	27.64	28.66	29.54	30.35	31.01	31.58	32.05

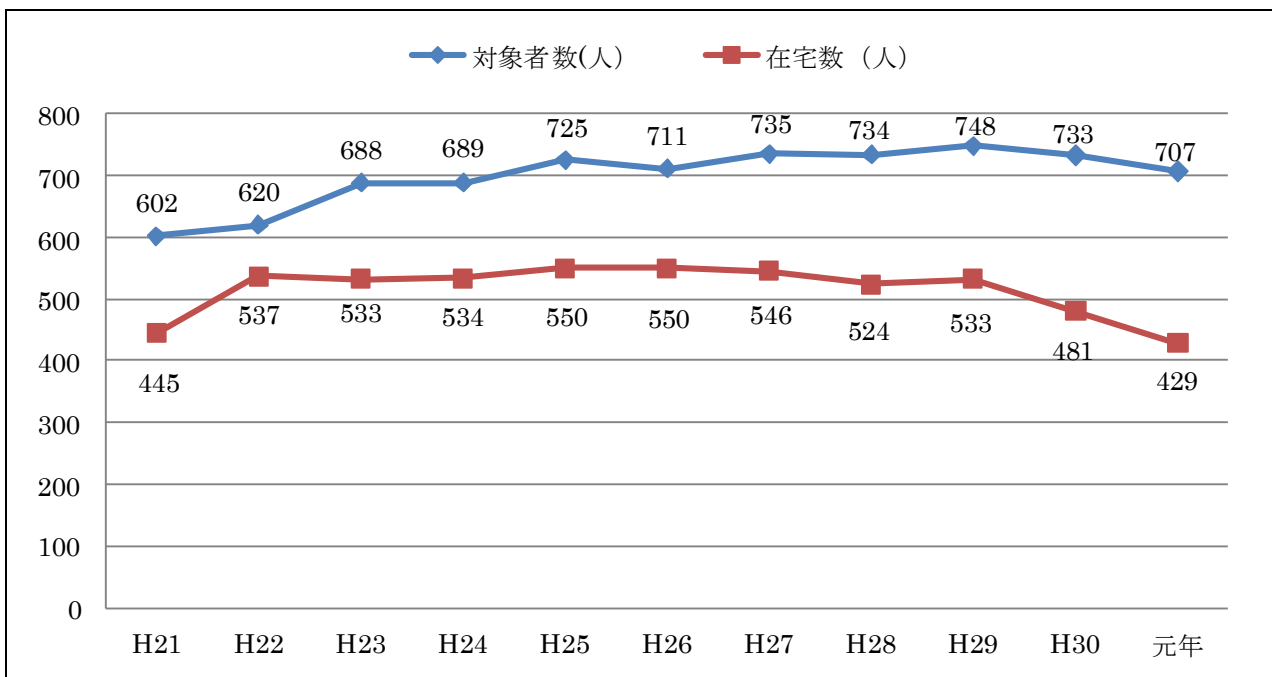
※愛媛県介護長寿課発行「高齢者人口等統計表」より抜粋

※高齢者の年齢は65歳以上

防災診断

1. ひとり暮らしのお年寄り宅防災診断

第1図 対象者数及び在宅数の推移



※対象者は65歳以上のひとり暮らしのお年寄り

第2表 地区別訪問状況及び建物の状況

久万地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	109	254	363	207	57.0	198	6	166	35
平成30年	115	264	379	237	62.5	228	7	197	33
平成29年	121	267	388	266	68.6	257	9	212	48
平成28年	99	266	365	263	72.1	251	1	215	42
平成27年	97	267	364	269	73.9	257	3	221	39

面河地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	16	53	69	45	65.2	42	3	41	4
平成30年	17	51	68	49	72.1	46	2	43	5
平成29年	17	52	69	45	65.2	45	0	43	2
平成28年	19	52	71	48	67.6	47	1	42	5
平成27年	18	55	73	52	71.2	50	0	46	4

美川地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	61	118	179	114	63.7	109	4	99	14
平成30年	61	127	188	138	73.4	133	5	120	18
平成29年	64	127	191	145	75.9	141	4	127	17
平成28年	63	125	188	129	68.6	124	5	116	13
平成27年	61	127	188	146	77.7	142	4	128	18

柳谷地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	31	65	96	63	65.6	61	2	55	7
平成30年	29	69	98	57	58.2	56	1	51	5
平成29年	28	72	100	77	77.0	75	2	71	6
平成28年	26	84	110	84	76.3	82	2	74	10
平成27年	24	86	110	79	71.8	76	3	71	8

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第3表 非常時の通報手段及び消火器

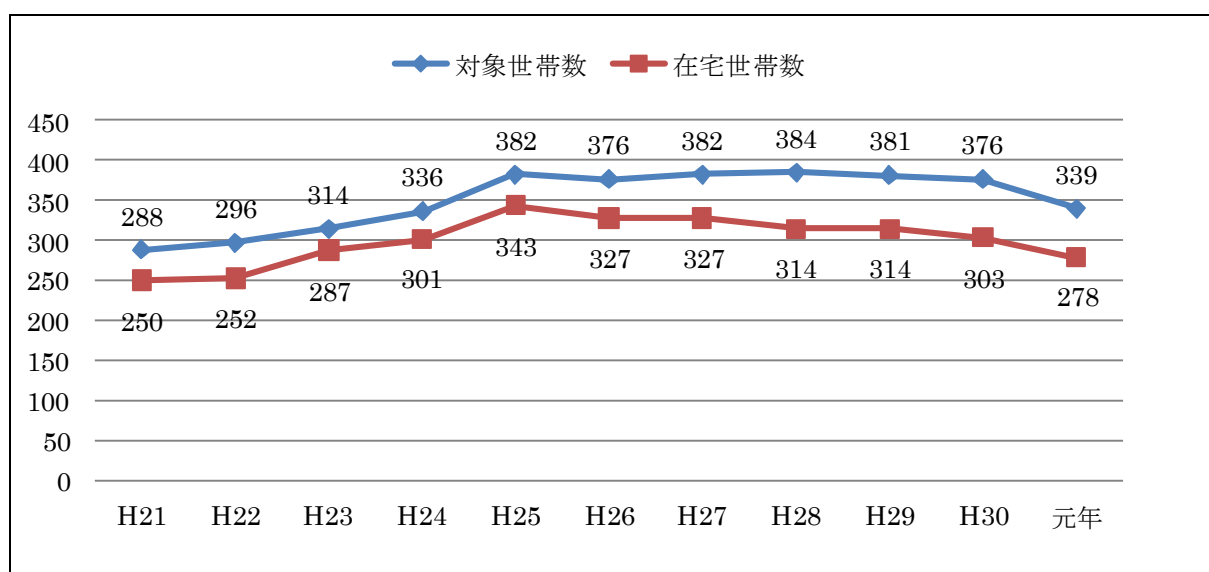
	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり (設置率)	不備あり (割合)
久万地区	193	133	14	16	2	128 (61.8%)	61 (47.7%)
面河地区	42	22	1	3	1	31 (68.9%)	16 (51.6%)
美川地区	111	65	2	8	0	78 (68.4%)	47 (60.3%)
柳谷地区	57	40	4	0	0	47 (74.6%)	25 (53.2%)
久万高原町	403	260	21	27	3	284 (66.2%)	149 (52.5%)

第4表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	21	31	25	6	21	40	12	4
面河地区	7	14	10	0	11	6	15	2
美川地区	45	24	49	5	15	8	61	3
柳谷地区	19	9	22	0	6	8	20	3
久万高原町	92	78	106	11	53	62	108	12

2. 後期高齢者夫婦世帯等防災診断

第2図 対象数及び在宅数の推移



※対象は75歳以上の夫婦世帯

第5表 地区別訪問状況及び建物状況

久万地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	久万地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	165	139	84.2	136	3	114	25
平成30年	197	156	79.2	153	3	130	26
平成29年	183	151	82.5	150	1	127	24

面河地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	面河地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	30	21	75.0	21	—	19	2
平成30年	30	26	86.7	26	—	24	2
平成29年	37	28	75.7	28	—	26	2

美川地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	美川地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	96	76	79.2	73	3	66	10
平成30年	100	80	80.0	78	2	69	11
平成29年	105	87	82.9	85	2	77	10

柳谷地区	対象世帯数	在宅数・在宅率 (%)		建築構造		建築年 (S56)	
	柳谷地区	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和元年	50	42	84.0	41	1	39	3
平成30年	49	41	83.7	40	1	38	3
平成29年	56	48	85.7	47	1	44	4

※各地区の在宅数・在宅率の拒否、対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第6表 非常時の通報手段及び消火器

	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり (設置率)	不備あり (割合)
久万地区	137	104	10	1	—	101 (72.7%)	50 (49.5%)
面河地区	21	17	1	—	—	14 (66.7%)	14 (100%)
美川地区	74	51	4	1	—	57 (75.0%)	43 (75.4%)
柳谷地区	42	35	4	—	—	33 (78.6%)	25 (75.8%)
久万高原町	274	207	19	2	—	205 (73.7%)	132 (64.4%)

第7表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備 件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	19	23	24	1	17	11	31	6
面河地区	7	5	8	1	3	4	8	—
美川地区	30	22	38	1	13	10	42	2
柳谷地区	18	10	21	1	6	8	20	—
久万高原町	74	60	91	4	39	33	101	8

消防現況 令和元年(平成 31 年)版

発行日 令和 2 年 3 月 1 日

発行 久万高原町消防本部

〒791-1207

愛媛県上浮穴郡久万高原町下野尻甲 33 番地

TEL (0892) 21-2411 FAX (0892) 21-2656

久万高原町
イメージキャラクター



©kumakogen